



滋賀

12月20日  
木曜日



# 湖国から健康を考える

②



医師や看護師不足の解決のため、滋賀医科大学では卒業後も自ら望んで地域医療に従事する人材を育成する『地域「里親」医学生支援プログラム』が実施されています。医療の原点である人と人とのつながりを学生たちが感じられるように、滋賀県全体で支えていく取り組みです。「湖国から健康を考える②」では、高齢化が進む中、加齢が原因となる加齢黄斑変性症や今年基準が改定された狭心症治療、手術支援ロボットによる直腸がん治療、新たな腎機能の観察法などについて専門の医師に聞きました。

## 加齢黄斑変性

### 片目ずつ発症、早期発見が重要



琵琶湖大橋病院

眼科センター長  
松本 慎司 氏

Q 症状と種類は。

A 黄斑は網膜の中心にあり、物を見分けたり文字を読むなどの大切な役割を担っています。加齢黄斑変性症は、視界の中心部分が見えにくくなったり、ゆがんで見えるようになるのが主な症状です。発見が遅れると視力低下が進み、治療をしても視力が戻りにくくなる

Q 原因は。

A 加齢に伴って網膜色素上皮の下に老廃物が蓄積し、黄斑が障害されることで発症しやすくなります。片目ずつ発症し、普段は両目で見ているため異常に気が付きにくいです。眼底検査、OCT（三次元眼底画像解析装置）、蛍光眼底造影検査ですぐに診断できるのが、早期発見が重要です。

Q 治療について。

A 滲出型の治療は、眼内に新生血管の増殖や成長を抑制する抗VEGF薬

（血管内皮増殖因子阻害薬）の注射が主流です。痛みはなく、導入期は1カ月に1回投与し、それを3カ月間続けてもらいます。その後は患者に合わせて注射回数

を減らします。抗VEGF薬で効果が出ない方には、光感受性物質を点滴して非常に弱いレーザーを照射する光線力学的療法（PDT）を併用して新生血管を閉じます。定期的に状態をチェックし、必要があればその都度再治療します。少し視力が改善すると安心して治療をやめてしまう方もおられますが、再発率は高いので定期的に医療機関を受診してください。